

【資 料】

「人体の構造と機能」に対する受講学生の意識と評価

—アンケート調査より—

滝口 洋 司*1, 藤 井 一 元*2

【要 旨】

日本赤十字広島看護大学の専門基礎科目の教科として、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」の講義を行った。よりよい講義をするためには、受講した学生に講義がどのように受け入れられているのかを、知る必要がある。そこで、受講した学生の協力を得て、本講義に対する学生の意識と評価を3度のアンケートにより調査した。

アンケートの結果を、素直に検討し、より解りやすい講義、役立つ講義の構築を行いたい。

【キーワード】人体の構造と機能, アンケート調査, 役立つ講義

はじめに

日本赤十字広島看護大学看護学部の専門基礎科目の教科として「人体の構造と機能Ⅰ」および「人体の構造と機能Ⅱ」の授業を行った。

「人体の構造と機能」は医学・看護学の習得を志す学生にとって、避けて通れない最も基礎的な重要科目であることはいうまでもない。

しかし、大学に入学したばかりの学生にとっては、必ずしも「おもしろい」あるいは「楽しい」科目ではなく、むしろ「少々難解な」・「味気ない」科目かもしれない。

過去1年間、「どの程度理解してもらっているのか」・「果たしてこれでいいのか」等々暗中模索しながら授業を進めてきたのが実情である。

今後の授業施行の参考と反省のため、学生諸君の協力を得て、「人体の構造と機能」の講義に対する学生の意識・評価をアンケートにより調査したので大略を報告する。

調査対象ならびに結果

1) 対象と方法

日本赤十字広島看護大学看護学科の平成12年度入学の学生140名に対し前期に「人体の構造と機能Ⅰ」を、後期に「人体の構造と機能Ⅱ」の講義を行った。

前期授業を8時間行った時点（平成12年4月20日）と、前期授業の期末テストを終了し、後期授業開始直前の時点（平成12年10月16日）、並びに後期授業の期末試験終了直後の時点（平成13年1月31日）の計3回にわたり、本授業に対する学生の評価並びに意識のアンケート調査を行った。アンケート回答は学生の、自由意志かつ無記名とした。

2) アンケート回収率

第1回目は140名中136名（97%）、第2回目は139

表1 高校での選択理科学科
アンケート調査日 平成13年1月31日

	選択理科学科	数	計 (%)
A	生物・化学・物理・地学	1	114 82.0%
	生物・化学・物理	3	
	生物・化学	49	
	生物・地学	3	
	生物	55	
B	化学・物理	14	25 18.0%
	化学	10	
	地学	1	

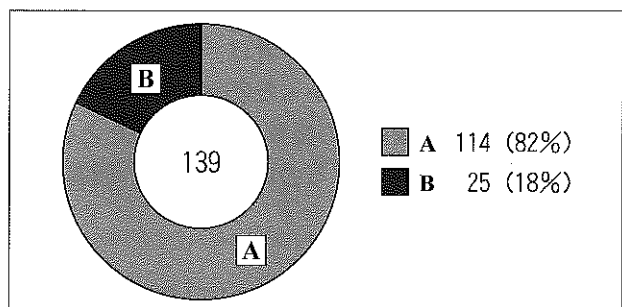


図1 高校での生物選択・非選択

*1 日本赤十字広島看護大学 takiguchi@jrchn.ac.jp

*2 日本赤十字広島看護大学, 非常勤講師

表2 非生物選択者の人体の構造と機能の講義の理解

アンケート調査日 平成13年1月31日

A	選択しなくても理解できた	8
B	選択しなかったので苦労した	15
C	回答なし	2

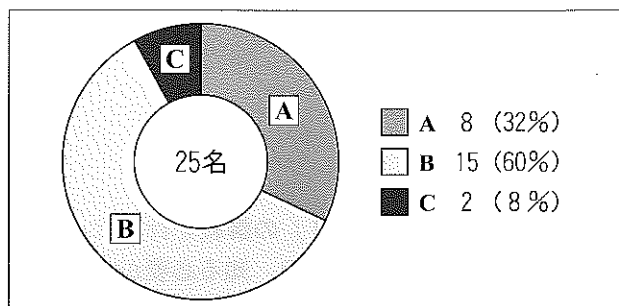


図2 非生物選択者の人体の構造と機能の講義の理解

表3 講義の内容

	I 調査日 H12. 4. 20		II 調査日 H12. 10. 16		III 調査日 H13. 1. 31	
	数	%	数	%	数	%
わかりやすい	19	25.8	26	20.3	53	38.0
まあまあ	97	71.3	83	64.9	75	54.0
わかりにくい	18	13.2	19	14.8	8	5.8
回答なし	2	1.5	0	0	3	2.2
計	136	100.0	128	100.0	139	100.0

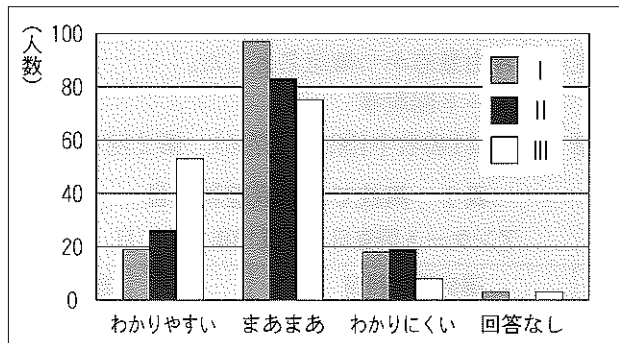


図3 講義の内容

名中128名 (92%), 第3回日は139名全員 (100%)の学生諸君の協力を得た。

(1)高校での理科は何を選択しましたか

表1, 図1のごとく生物を選択した者は114名 (82%)で, 選択していない者は, 25名 (18%)であった。生物を選択しなかった25名の中8名 (32%)は「人体の構造と機能」の授業が理解出来たといい, 15名 (60%)が, 理解するのに苦労したと回答している (表2, 図2)。

(2)講義の内容は

「わかりにくい」としたものは1回目が13.2%, 2回目が14.8%, 3回目が5.8%であった (表3, 図3)。

(3)講義の程度は

1~3回を通して「専門的すぎる」としたものが

表4 講義の程度

	I 調査日 H12. 4. 20		II 調査日 H12. 10. 16		III 調査日 H13. 1. 31	
	数	%	数	%	数	%
低い	1	0.7	4	3.1	3	2.2
まあまあ	111	81.6	103	80.5	126	90.6
専門的すぎる	12	8.8	13	10.2	2	1.4
回答なし	12	8.8	8	6.2	8	5.8
計	136	100.0	128	100.0	139	100.0

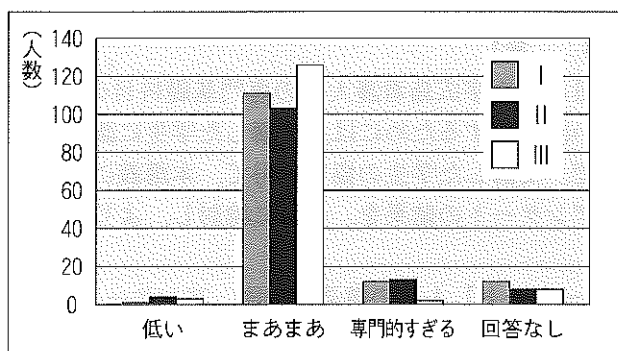


図4 講義の程度

表5 講義の時間に対する内容

	I 調査日 H12. 4. 20		II 調査日 H12. 10. 16		III 調査日 H13. 1. 31	
	数	%	数	%	数	%
多すぎる	95	69.9	54	42.2	68	48.9
適当	38	27.9	63	49.2	66	47.5
少ない	3	2.2	7	5.5	2	1.4
回答なし	0	0	4	3.1	3	2.2
計	136	100.0	128	100.0	139	100.0

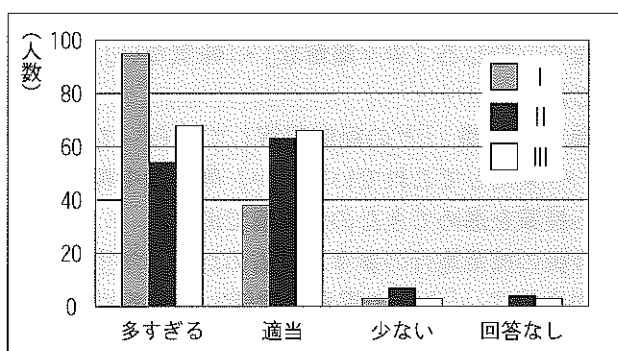


図5 講義の時間に対する内容

1.4~10.2%, 逆に「程度が低い」としたものが0.7~2.2%で, 80~90%が「まあまあ」と回答していた (表4, 図4)。

(4)講義の時間に対する内容の多寡については

授業をはじめた頃 (第1回目) は約70%が「多すぎる」と回答したが, 前期の終わり (第2回目), 後期の終わり (第3回目) では, 42~49%となり, 「適当だ」としたものは, 第1回目の28%から第2・3回目で47~49%と増加していた (表5, 図5)。

表6 話し言葉

アンケート調査日 平成12年4月20日

語 呂	A		119名
	B	よくわかる 歯切れが悪い	
音 量	A	声が小さい	1
	B	まあまあ	133
	C	声が大きすぎ	2
スピード	A	速すぎる	64
	B	まあまあ	70
	C	遅すぎる	2

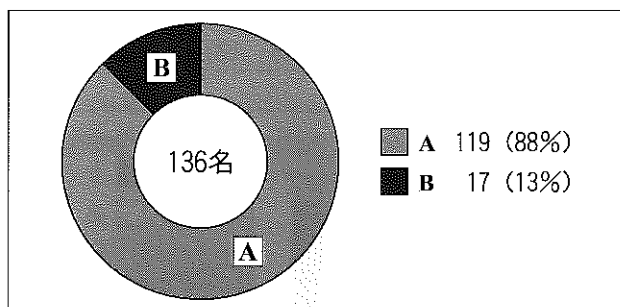


図6-1 話し言葉

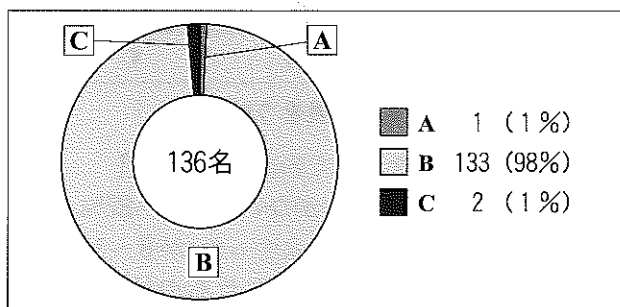


図6-2 音量

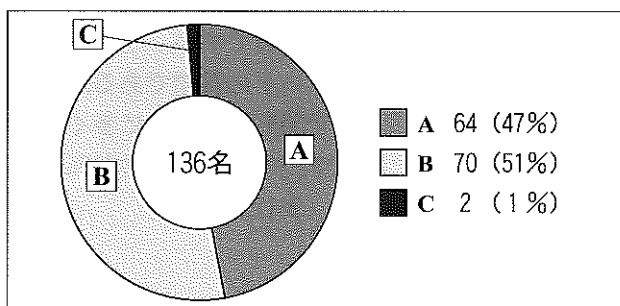


図6-3 スピード

(5)話し方は

この項目は第1回目のみ質問した。語呂、ボリュームはともかく、約47%から「速すぎる」と指摘された(表6, 図6-1, 図6-2, 図6-3)。

(6)講義ごとにプリントが必要ですか

第2・3回目の質問であるが、「大切な箇所だけでよい」(22~32%)を含む全員がプリントを希望していた(表7, 図7)。

(7)この講義は将来の看護に役立つと思いますか

「役立つと思う」と回答したものが第1回目の83.8%から、第2回目89.1%、第3回目95.7%と増加

表7 各講義ごとのプリントの必要性

	II 調査日 H12.10.16		III 調査日 H13.1.31	
	数	%	数	%
必要	88	68.8	109	78.4
大切な箇所だけでよい	40	31.2	30	21.6
不必要	0	0	0	0
計	128	100.0	139	100.0

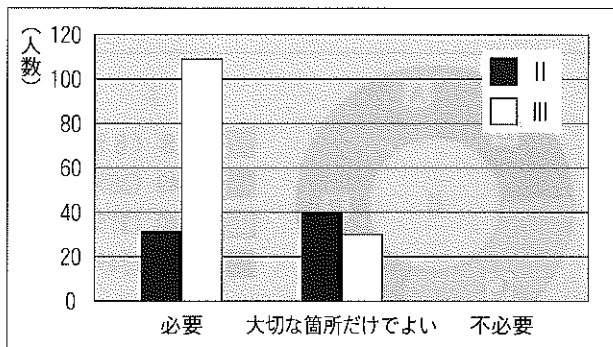


図7 各講義ごとのプリントの必要性

表8 講義が将来の看護に役立つと思うか否か

	I 調査日 H12.4.20		II 調査日 H12.10.16		III 調査日 H13.1.31	
	数	%	数	%	数	%
A 役立つと思う	114	83.8	114	89.1	133	95.7
B あまり役立つ ないのでは?	1	0.7	0	0	0	0
C 現段階では何 ともいえない	21	15.5	14	10.9	6	4.3
計	136	100.0	128	100.0	139	100.0

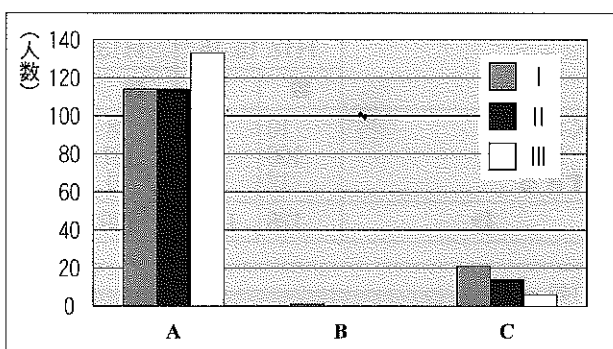


図8 講義が将来の看護に役立つと思うか否か

していた(表8, 図8)。

(8)期末試験について

①難易度は

「普通」というのが33~38%、「やや難しかった」というのが31~47%、「難しかった」が14~24%で、「易しかった」というのは約6%にすぎなかった(表9, 図9-1, 9-2)。

②問題の数は

表9 期末試験の難易度

		Ⅱ 調査日 H12.10.16		Ⅲ 調査日 H13.1.31	
		数	%	数	%
A	やさしかった	8	6.2	8	5.7
B	普通	49	38.3	46	33.1
C	やや難しかった	40	31.3	65	46.8
D	難しかった	31	24.2	20	14.4
計		128	100.0	139	100.0

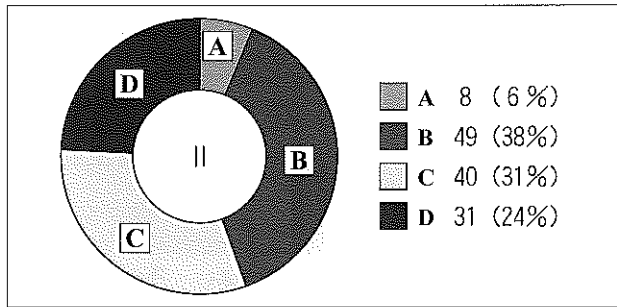


図9-1 期末試験の難易度(Ⅱ)

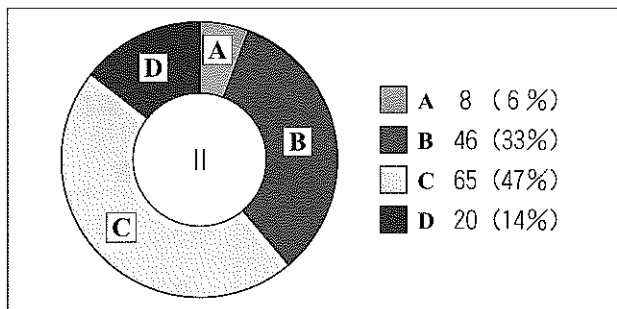


図9-2 期末試験の難易度(Ⅲ)

表10 期末試験の問題の数

	Ⅱ 調査日 H12.10.16		Ⅲ 調査日 H13.1.31	
	数	%	数	%
すくない	10	7.8	8	5.8
適当	106	82.8	131	94.2
多すぎる	12	9.4	0	0
計	128	100.0	139	100.0

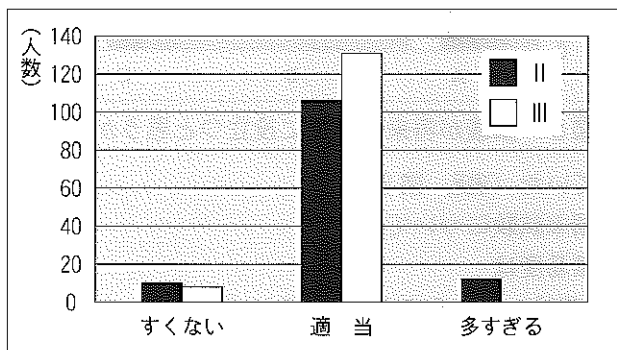


図10 期末試験の問題の数

前期期末試験では約83%，後期期末試験で約94%が「適当だ」と回答している(表10, 図10)。

表11 試験をうけて

		Ⅱ 調査日 H12.10.16		Ⅲ 調査日 H13.1.31	
		数	%	数	%
A	結果はともかく試験を受けてよかった	10	7.8	18	13.0
B	試験という制度はいやだが仕方がない	106	82.8	121	87.0
C	試験は絶対にいや。レポートがよい	12	9.4	0	0
計		128	100.0	139	100.0

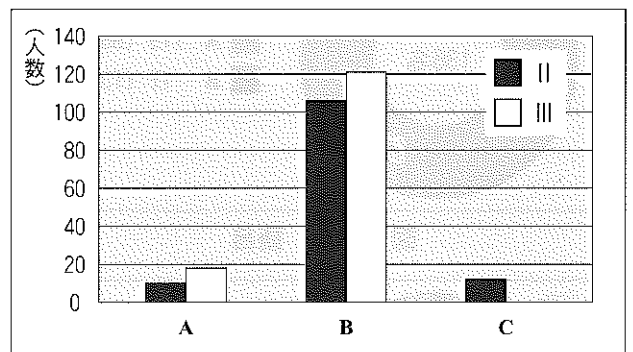


図11 試験をうけて

(9) 2回の期末試験を受けてのひとくち感想

「試験はいやだがしかたがない」が83~87%、「結果はともかく試験を受けてよかった」が8~13%で、「試験は絶対にいや」と回答したものは前期では9.4%であったが、後期ではなかった(表11, 図11)。
 (10) 「人体の構造と機能1・Ⅱ」の授業を受けてもっと勉強したいと思った項目は何ですか

これは第3回目のアンケートの質問であるがこれに対し神経系47%、免疫学39%が圧倒的に多く、次いで循環器系26%、血液学23%、内分泌学21%、消化器系20%の順であった(表12, 図12)。

考 案

医療・看護に対し夢と抱負を抱いて入学した学生が、最初に驚くのは、膨大かつ複雑にして精巧な「人体の構造であり機能」であろう。しかし、筆者らの体験からすると、「解剖学」や「生理学」の講義が大切であることは十分わかっているつもりだが、やはり一面、〈単調〉で〈退屈な〉講義であることには間違いない。

どうすれば、学生の夢を壊さないで、「人体の構造と機能」を理解してもらえるか、ということが筆者らの課題である。

日本赤十字広島看護大学に第1回生として入学してきた学生の「人体の構造と機能」の講義に対する

表12 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱのうち、もっと勉強したい項目
アンケート調査日 平成13年1月31日

項目	細胞学	組織学	骨格系	筋肉系	血液学	循環器系	呼吸器系	消化器系	内分泌学	免疫学	泌尿器系	生殖器系	発生学	神経系	感覚器系
人数	6	4	14	15	32	36	24	28	29	54	12	19	13	65	19

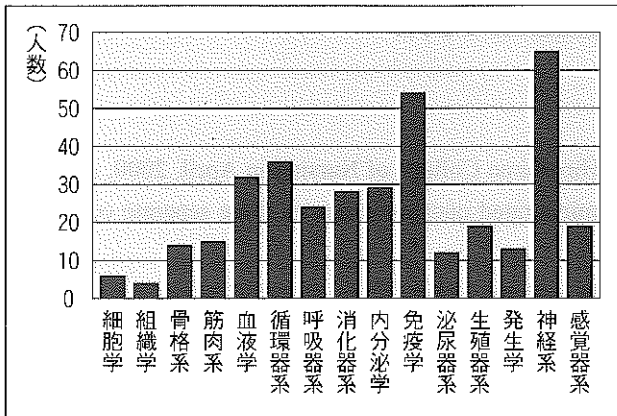


図12 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱのうち、もっと勉強したい項目

率直な意見をアンケートで知ることができた。その結果は前述の通りである。

高校での理科の選択科目（特に生物）の問題、講義の内容、程度、話し方、使用するプリント、期末試験の問題等々、いろいろと参考になる回答を得た。

今回の回答の内容を参考にして、授業の再構築を検討し、より解りやすい、役に立つ「人体の構造と機能」の講義を行うよう努力し、回答してくれた学生の皆さんの好意に応えたい。

なお、今回回答してくれた学生が、今後さまざまな専門科目の授業や実習を体験することにより、「人体の構造と機能」の講義に対する再評価をしてくれることを期待している。

付記：今回のアンケートの最後で、「皆さんは本学の第1回生ですが、これからみんなで新しい大学の伝統をつくる誇りをもっていますか」という質問を行った。それに対し128名（92.1%）の学生から「誇りを持っている」という頼もしい回答をいただいた。

謝 辞

アンケートの回答にご協力いただいた本学第1回生の学生の皆さんに深謝いたします。

Students' Reactions to Lectures on the Structure and functions of the Human Body

Youji TAKIGUCHI* & Kazumoto FUJII**

Abstract:

The authors gave students who had entered the Japan Red Cross Hiroshima College of Nursing in April, 2000, a course on the structure and functions of the human body. The authors administrated questionnaires on three separate occasions to ask students feelings about the lectures in the course.

The students gave many helpful answers to the questionnaires. The authors appreciate the students' candid answers and will give a better lecture in accordance with their opinions.

Keywords:

structure and functions of the human body, questionnaire, a better lecture

* The Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing

** The Japanes Red Cross Hiroshima College of Nursing. Part-time Lecturer